

岐阜城

THE CASTLE OF NOBUNAGA'S DREAM



観覧案内

岐阜城

令和6年4月現在

| 入場料(岐阜城資料館と共通) | | 開館時間 |
|-----------------|------|---|
| 大 人(16歳以上) | 200円 | 年中無休 3月16日～10月16日 9:30～17:30 10月17日～ 3月15日 9:30～16:30 |
| 小 人(4歳以上16歳未満) | 100円 | 元日のみ 6:30～16:30 ※期間限定で夜間開館あり ※諸事情により時間変更あり |
| 団体割引 ……30人以上2割引 | | |

※次の方は、入場料が無料になりますので、手帳等をご提示ください。

- 1.身体障害者手帳・精神障害者保健福祉手帳・療育手帳・指定難病受給者証の交付を受けている方及びその介護者
- 2.70歳以上の方
- 3.家庭の日(毎月第3日曜日)に入場する中学生以下の方と同伴する家族の方
- 4.岐阜市内の中学生以下の方

ぎふ金華山ロープウェー

営業時間及びロープウェー運賃については右記のQRコードをご参照ください。



※駐車台数に限りがありますので、お越しの際はできる限り公共交通機関をご利用ください。

(お問い合わせ)

◆岐阜城
TEL(058)263-4853

◆岐阜市観光案内所
JR岐阜駅2F
TEL(058)262-4415

◆岐阜観光
コンベンション協会
ホームページ



発行(公財)岐阜観光コンベンション協会

略年表

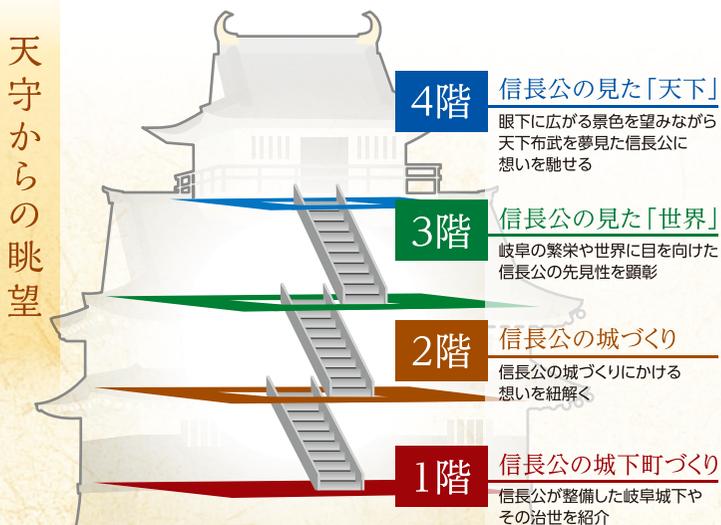
| 時代 | 年号(年数) | 西暦 | 城主名 | 備考 |
|----|--------|-----------|-------------------------------|---|
| 鎌倉 | 建仁年間 | 1201～1204 | 二階堂行政 佐藤朝光 伊賀光宗 稲葉光資 | 鎌倉幕府の軍事目的のため築城と伝えられる。 稲葉氏と改姓、稲葉山城と名付ける。 |
| | 正元年間 | 1259～1260 | 二階堂行藤 | 関市周辺に領地をもち、新長谷寺を再興する。 |
| 室町 | 応永年間 | 1394～1428 | 斎藤利永 | 土岐氏の執権で城を修築する。文安2年(1445)加納城に移る。 |
| | 天文年間 | 1532～1554 | 斎藤妙椿 (長井新左衛門尉) 斎藤道三 | 応仁の乱で京都へ出陣。歌人としても有名。道三の父親といわれる。 天文8年稲葉山城を修築して入城。 (入城年については諸説あり) 天文23年鷲山城に移る。弘治2年義龍と戦い死去。 |
| | 天文23年 | 1554 | 斎藤義龍 | 永禄4年5月病死する。(34歳) |
| | 永禄4年 | 1561 | 斎藤龍興 (竹中重治) | 若年で跡を継ぐが、永禄7年2月竹中半兵衛重治によって一時占拠される。永禄10年8月織田信長に攻められ開城。木下藤吉郎功名する。 |
| | 永禄10年 | 1567 | 織田信長 | 尾張小牧から稲葉山城(のちの岐阜城)へ移り楽市楽座を保護するなど城下町岐阜の発展をはかる。天正4年には安土城に移り、天正10年本能寺の変で自害する。 |
| 安土 | 天正4年 | 1576 | 織田信忠 | 父信長の跡を継いで、岐阜の繁栄につくす。本能寺の変で二条城において明智光秀に攻められ戦死する。 |
| | 天正10年 | 1582 | 織田信孝 | 信長の三男で伊勢神戸城から移り、天正11年秀吉に攻められ開城する。 |
| | 天正11年 | 1583 | 池田元助 | 天正12年小牧長久手の合戦で戦死する。 |
| 桃山 | 天正13年 | 1585 | 池田輝政 | 天正18年9月三河吉田城に移り、後に姫路城主となる。 |
| | 天正19年 | 1591 | 豊臣秀勝 | 秀吉の養子で羽柴姓を名乗り、文禄元年朝鮮に出陣し、唐島(巨濟島)で病死する。 |
| | 文禄元年 | 1592 | 織田秀信 | 安土城から移る。慶長5年8月徳川軍に攻められ開城。慶長10年5月死去。(26歳) |
| | 慶長6年 | 1601 | | 廃城となる。天守閣、櫓、石垣等を加納城へ移す。 |
| 江戸 | | | | 城郭なし。 |
| 明治 | 明治43年 | 1910 | | 模擬城建設。昭和18年2月焼失。 |
| 昭和 | 昭和31年 | 1956 | | 現在の天守閣再建。 |
| 平成 | 平成9年 | 1997 | | 再建以来初の大改修。 |
| | 平成13年 | 2001 | | 築城800年を迎える。 |
| | 平成23年 | 2011 | | 金華山一帯が「岐阜城跡」として、国の史跡に指定される。 |
| | 平成29年 | 2017 | | 信長公450プロジェクト (織田信長公岐阜入城・岐阜命名450年事業)を実施 |

信長公・道三公ゆかりの城

岐阜城は、かつて稲葉山城と称していました。金華山頂にはじめて砦を築いたのは、鎌倉幕府の執事二階堂山城守行政と伝えられています。戦国時代には、斎藤道三の居城でもあったところです。特に岐阜城の名を天下に示したのは、永祿十年（一五六七年）（説に永祿七年）八月、不世出の英傑織田信長がこの城を攻略し、この地方一帯を平定するとともに、地名も「井口」を「岐阜」と改称し、天下統一の本拠地としてからでした。しかし、慶長五年（一六〇〇年）八月、関ヶ原合戦の前哨戦の際、信長の孫秀信が西軍に味方したため、東軍に攻め入れ、激戦の末落城しました。翌慶長六年、岐阜城は廃城となり天守閣・櫓等は加納城に移されました。現在の城は、昭和三十一年七月、岐阜城再建期成同盟によって復興されたもので、鉄筋コンクリート造り、三層四階構造で延べ四六・七七㎡、棟高七・七七mの威容を誇ります。

平成二十三年二月、金華山「帯が」岐阜城跡」として、国の史跡に指定されました。

各階のご案内



天守からの眺望

岐阜城は現在築城されている城郭のうちでは、有数の高さ（標高三三九m）にあります。

最上階からは、眼下に鶴飼で有名な清流長良川が市内を貫流し、東には恵那山、木曾御岳山が雄大な姿を見せ、北には乗鞍、日本アルプスが連なっています。また西には伊吹、養老、鈴鹿の山系が連なり、南には濃尾の大平野が豊かに開け、木曾の流れが悠然と伊勢湾に注いでいるさまを一望におさめることができます。かつてここで信長も天下を見晴らしたように壮大な眺望を楽しむことができます。また、岐阜城では夜景を楽しんでいただくため、期間限定で開館時間を延長しています。



織田信長公
(崇福寺所蔵)

天文三年（一五三四年）尾張の織田信秀の次男として生まれ、幼名を吉法師、元服して上総介信長と名のりました。永祿十年（一五六七年）稲葉山城を占領して天下統一の足場とし、城下町には「衆市楽座」を設けました。当時の岐阜の町の様子をポルトガルの宣教師ルイス・フロイスはバビロンの賑わいのように「述べた」と述べています。天正四年（一五六六年）岐阜城を長男信忠にゆづり、自らは安土城へ移りました。天正十年（一五八二年）本能寺の変で倒れました。



斎藤道三公

道三が油売りの行商から美濃国へ来て、国盗りに成功した物語は余りにも有名です。しかしこれは、道三と父の長井新左衛門尉との事歴が重なっているといわれます。道三は美濃で生まれ、初名を長井（藤原とも新九郎規秀と言ひ、長じて主家の斎藤家を乗取り、斎藤新九郎利政と称します。その後、守護土岐頼芸を追い、ついに美濃国の実権を握り、剃髪して斎藤新九郎入道道三と名乗りました。晩年、息子の義龍と不和となり、弘治二年（一五五六年）四月、千日長良川を挟んで戦ひ敗死しました。

岐阜城資料館

岐阜城のすぐ東に岐阜城資料館があります。昭和五十年四月に昔の武器庫、食糧庫を隔櫓城郭造りに復元したものです。



日本遺産

文化財を活用し、観光振興や地域活性化を図ることを目的に、文化庁が平成二十七年から創設した制度です。地域に根付き世代を超えて受け継がれている歴史的魅力にあふれた文化財群をまとめたストーリーを、「日本遺産」として認定するもので、岐阜市はその第号に認定されました。

ストーリーの概要

戦国時代、岐阜城を拠点に天下統一を目指した織田信長。彼は戦いを進める方、城内に「地上の楽園」と称される宮殿を建設、軍事施設である城に「魅せる」という獨創性を加え、城下一帯を最高のおもてなし空間としてまとめあげる。自然景観を活かした城内外の眺望や長良川での鶴飼観覧による接待。冷徹なイメージを覆すような信長のおもてなしは、宣教師ルイス・フロイスら世界の賓客をも魅了した。信長が形作った城・町・川文化は城としての役割を終えた後も受け継がれ、現在の岐阜の町に息づいている。



JAPAN HERITAGE
日本遺産



岐阜城から長良川を望む



岐阜城パノラマ夜景（期間限定）

西側（長良川方面）